



JAグループは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として、組合員、地域から「必要とされ、なくてはならない存在」となることを目指し、さまざまな取り組みを展開しています。

未来を拓く協同組合 SDGsとJA



監修＝JCA（日本協同組合連携機構）

第27回

住み続けられるまちづくりを

現在、世界人口の半分の約35億人が都市で暮らし、これからも増え続けると予測されています。日本も都市部に人口が集中し、一方で農村部は人口減少や高齢化が進んでいます。国連が掲げるSDGs（エスディージーズ、持続可能な開発目標）では「住み続けられるまちづくりを」を目標の一つに掲げています。

地域に住み続けるためには金融機関、食料品店舗、ガソリンスタンドなど社会的なインフラが欠かせません。JAや生協等の協同組合間で連携し、暮らしの困りごとを支援する事例もあります。さらに、都市農業の営みにより都市部の農地が維持され、環境保全や災害発生時の防災機能の発揮等にもつながっています。自治体と包括協定を結ぶ事例も全国的に広がっており、住み続けられるまちづくりを後押ししています。



SDGsに関連する主な取り組み

地域の困りごとと解決（島根）

生協や医療生協、JA、社会福祉協議会が連携し、有償の助け合いシステム「おたがいさま」を実施しています。暮らしの困りごとを住民が協力して解決する取り組みです。困りごとがある「利用者」とそれを助ける「応援者」を「コーディネーター」が結び付けて、解決に導きます。

困りごといろいろ・応援いろいろ

家事	掃除・洗濯・買い物・食事づくり・ゴミ出し
介助	散歩・話し相手・外出や通院の付き添い
育児	子どもの遊び相手・保育園等の送り迎え
その他	草取り・電球交換・衣類のお直し・お墓の掃除

災害復興支援（岩手）

2017年に発生した岩手県釜石市の大規模林野火災に対し、2018年に岩手県協同組合提携協議会が県内の協同組合に参加を呼びかけ、JAグループや生協、漁協、森林組合が連携して森林再生の植樹を実施しました。



JCA資料等から作成



耕そう、大地と地域の未来。
(JA広報通信より)

JA広島市の自己改革

災害時の緊急避難場所に指定 災害協力協定

JA広島市と安佐北区白木町の小椿町内会は、三田支店を災害時における避難場所とする災害協力協定を、6月29日に締結しました。

三田地区は、平成30年の西日本豪雨災害で、川の増水による被害があり、小椿町内会においても防災マップを作成したところ、広島市の指定する避難場所へは移動が難しく、さらに万一对応できる安全な避難場所が少ないことから、三田支店の2階を一時的な避難場所として利用したいという要望を受け、協力協定の締結に至りました。

JA広島市では、これまでこうした地域の期待に応え、落合支店、水内支店、小河原支店、久地南支店が、地域の自主防災会等と災害協力協定を結んでおり、三田支店で5店目となります。JA広島市は「心豊かで健康な暮らしと活力ある地域社会づくりに貢献」することを経営方針に掲げており、支店を拠点としたふれあい活動を通じ、地域活動へ積極的に参加し、地域との結びつきの強化に努めています。

三田支店の粟村智幸支店長は「地域に根ざした活動を行っているJA広島市にとって、万一災害が発生した場合に復興のお手伝いをする事は、地域のみなさまとのつながりを強くすることとなる。地域の一員として役割を果たしたい」と意欲を見せました。



協定書に調印した小椿町内会の河角友博会長（中）と防災担当者の湯門壽博さん（右）、三田支店 粟村智幸支店長（左）